

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(世界ランクシリーズ: <http://mylibrary.maeda1.jp/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0581

(注)本稿は 2023 年 7 月 14 日から 19 日まで 3 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2023.7.21
前田 高行

急速に改善する中国、悪化する UAE: 世界平和指数

(世界ランクシリーズ その8 2023年版)

国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第8回の世界ランクは、NGO グループ Vision of Humanity が The Economist Intelligence Unit (EIU、英国の経済誌エコノミストの一部門)のデータをもとに取りまとめた「The Global Peace Index 2023」をとりあげて比較しました。

* Vision of Humanity のホームページ:

<https://www.visionofhumanity.org/conflict-deaths-at-highest-level-this-century-causing-world-peacefulness-to-decline/>

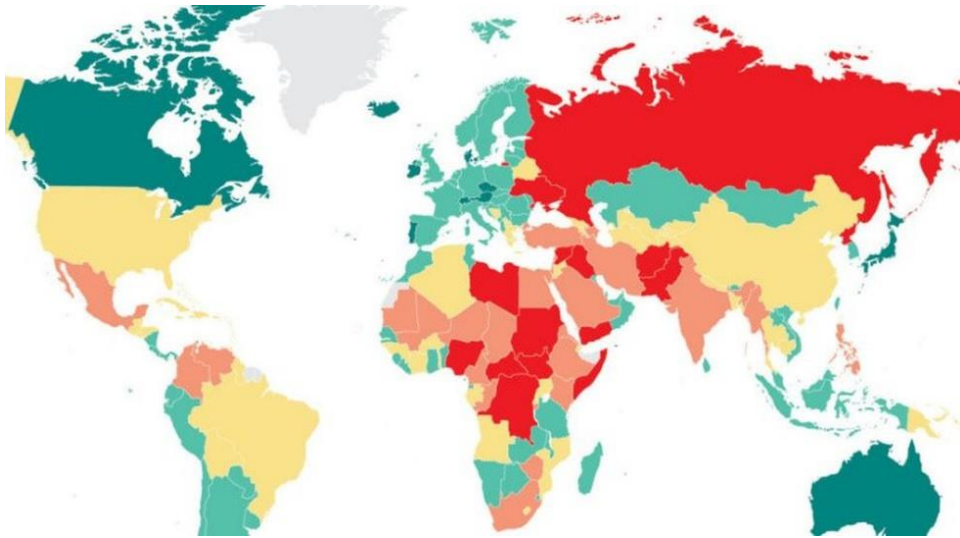
1. 「The Global Peace Index」について

Global Peace Index は各国の平和の程度およびそれを維持するための機能を指数化し、ランク付けしたものである。2007年に実施された第1回調査ではその対象は121カ国であったが、今回の2023年版では163カ国を対象に調査が行われている。

平和指数は EIU 社の国別調査員と外部ネットワークの協力を得て作成されている。指数は小型破壊兵器(銃、小型爆発物など)の入手の容易さ、国防費¹、汚職、人権に対する尊重の度合いなど24項目をベースにして作成されたものである。

「世界平和指数」の査定結果には以下のような特徴が見られる。

- ・ 平和の度合いは収入、教育制度、地域一体化のレベル等の指標に関連している。
- ・ 平和な国の多くは政府の透明性が高く、汚職が少ない。
- ・ 小さいが安定した国は平和のランクが高い。



(平和の世界地図:濃緑色 Very high、緑色 High、黄色 Medium、オレンジ Low、赤 Very low)

(世界163か国中で日本は9位、米露アラブ主要国は軒並み100位以下！)

2. 2023年の世界ランク及び2022年との比較

(表<http://rank.maeda1.jp/8-T01.pdf>参照)

2023年の平和指数世界1位はアイスランドでスコアは1.124である。これに続く世界5位までにはデンマーク、アイルランド、ニュージーランド及びオーストリアがあがっている。ニュージーランド以外はいずれも西ヨーロッパの国々である。なお今回と去年のトップ5の顔触れは同じであり2位と4位の順位が入れ替わっただけである。

日本を含む主要な国々の世界ランクを見ると、日本は9位(スコア1.336)でスコアは昨年と同じであるが順位が10位から9位に繰り上がっている。中国は80位であり、昨年の89位から9ランク順位をあげ、世界163カ国のほぼ中間に位置している。米国、インド、ロシアはいずれも世界100位以下であり、インドは126位、米国はさらに低い131位にとどまっている。両国の昨年の順位はそれぞれ135位及び129位であり、今回は順位が逆転している。ロシアは158位であり、ほぼ最底辺にとどまっている。最下位の163位はアフガニスタンである。

中東各国を見ると、トップはカタールで同国の世界順位は21位と世界的にみても平和指数がかなり高く、また前年と比べても指数、ランクともに上昇している。カタールは中東では群を抜いて平和指数が高く、カタールに次ぐのはUAEで世界ランクは75位である。昨年の同国のランクは60位であり、今年は大幅にダウンしている。

その他の中東諸国のほとんどは100位以下にとどまっている。カタール、UAEとともにGCCの構成メンバーである産油国サウジアラビアの世界順位は163カ国中の119位である。エジプトは121位にランク付けされ、イスラエルは143位、イラン及びトルコは共に147位である。これら各国の順位を前年と比較すると、エジプトはアップ、イラン、イスラエル及びトルコはいずれもダウンしてい

る。

(上昇傾向の中国、カタール、大きく下落する UAE !)

3. 日米中露と中東主要国の世界ランクの推移(2018年～2023年)

(図<http://rank.maeda1.jp/8-G01.pdf>参照)

2018年から2023年までの平和指数世界ランクの推移を見ると、アイスランドは6年間を通じてトップを維持している。2018年の日米中露と中東主要国のランクは日本が9位、UAE45位、カタール56位であったが、その他の国々はいずれも世界100位以下であった。

日本はその後2021年を除きベストテンを続け今年の世界9位である。米国の世界順位の推移は121位(18年)→128位(19年)→121位(20年)→122位(21年)→129位(22年)→131位(23年)と近年は順位が下がる傾向が見られる。一方中国は112位(18年)→110位(19年)→104位(20年)→100位(21年)→89位(22年)→80位(23年)と6年連続して順位が上昇、昨年からは100位以内にランクアップし、今回は世界164カ国の上位グループに食い込んでいる。

中東諸国の中ではカタールの伸びが著しく過去6年間を通じて毎年順位を上げ、低迷する他国との格差を広げている。同国の2018年の順位は56位であったが、今回は世界21位にランクされ同国の平和指数の改善には目を見張るものがある。これに対してUAEは順位の下落が激しく、2018年にカタールを上回る世界45位であったが、翌2019年には順位が逆転、その後両国の格差は拡大する一方であり、今年カタールの21位に対してUAEは75位にとどまっている。カタールは2022年のワールドカップ開催のため治安の維持、平和イメージの向上に多大な努力を払ったことがうかがわれる。

2018年に129位であったサウジアラビアはその後改善の兆し見られ、2023年には119位にアップしている。イランとロシアはここ数年平和度が低下しており、イランは2018年の131位が2023年には147位にまでダウンしている。またロシアは2018年から2021年まで世界154位であり、世界最低レベルに低迷していたが、2022年、23年はさらに平和指数が悪化、2023年のランクは世界163カ国中の158位に落ち込んでいる。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-Mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ 世界ランクシリーズ7「世界と中東主要国の軍事費」参照。
<http://mylibrary.maeda1.jp/0575WorldRank7.doc.pdf>